

# 平成 22 年度 日本老年看護学会 総会 議事録

日 時：平成 22 年 11 月 7 日（日） 13 時～14 時

場 所：ベイシア文化ホール（群馬県民会館）大ホール 学術集会第 1 会場

報告者：理 事 長 太田喜久子

副理事長 堀内 ふき

理 事 石垣 和子 大塚真理子 北川 公子 酒井 郁子 正木 治恵（前監事）

水野 敏子 山本 則子 湯浅美千代

記 録：島田広美（会員） 吉田 妙（事務センター）

## 1. 開会の辞

湯浅理事より、総会時点の会員数 1,179 名のうち委任状 443 通、出席者 48 名であり、会則 19 条に則り総会として成立している旨が報告され開催が宣言された。また、太田理事長より開会の辞が述べられた。

## 2. 議長選出

議長選出にあたっては、慣例により小泉美佐子第 15 回学術集会長が選出された。

## 3. 報告事項

### 1) 理事会、評議員会報告（総一資料 1）

太田理事長より、総一資料 1 に基づき、昨年度総会以降、平成 21 年度第 5 回理事会、平成 22 年度臨時新理事会、平成 22 年度第 1～4 回理事会、第 1 回評議員会を実施した旨が報告された。また、平成 22 年度の主な活動等として以下の 5 項目について報告された。

#### (1) 新体制でのスタート

各委員会委員長および委員を決定し、新体制での運営を開始した。

#### (2) 第 16 回学術集会／第 27 回日本老年学会総会準備

2011 年 6 月に開催する第 16 回学術集会の開催にあたり、中島紀恵子氏を学術集会長として、現在準備を進めている。

#### (3) 特定看護師（仮称）が行う医療行為に関する資料作成

日本看護系学会協議会の依頼により、特定看護師（仮称）が行う医療行為の抽出を行うため、老年看護政策検討委員会を中心としたワーキンググループを設置した。また、この経緯ならびに考え方については、第 15 回学術集会において学会企画交流集会「老年看護における特定看護師の方向性と課題」を開催し討議の場をもった。

#### (4) 総会開催時期について

次年度からの学術集会開催時期の変更に伴い、総会開催時期も 6 月に変更する。なお、事業計画および予算の審議にあたっては、当該年度の総会にて審議することが報告された。

#### (5) 第 17 回学術集会長について

第 17 回学術集会長について、石垣和子理事に依頼し、承諾を得た旨が報告された。

## 2) 総務報告（総一資料 1）

大塚理事より、会員数について昨年の学術集会時より 102 名増加し、現在 1,179 名である旨が報告された。なお、入会案内を作成し、広報活動を強化している旨も報告された。

## 3) 委員会報告（総一資料 2）

### (1) 編集委員会

北川委員長より下記の 7 項目について報告がなされた。

#### ① 新委員会の構成について

役員改正により平成 22～24 年度の編集委員会を、下記のとおり構成した。

委員長：北川 公子

委員：大塚眞理子，小長谷百絵，酒井 郁子，鈴木みずえ，高山 成子，田高 悦子，  
谷口 好美，長谷川真澄，松岡 千代

#### ② 第 15 巻 1 号について

第 15 巻 1 号に対し、27 編の論文が投稿され、平成 22 年 5 月以降、3 回の委員会を開催し、これらの論文の査読結果に対する審議・検討を行った。現在、雑誌掲載予定の 7 編の論文の最終点検を行い、11 月初旬に入稿の予定である。委員の交代等により例年より 2 週間程度遅い進行であり、12 月中旬ないしは 1 月初旬の発行見込みである。

#### ③ 平成 22～24 年度の査読者について

現在、74 名の方々に査読者を依頼し、毎回、丁寧かつ適切な査読をいただいている。

#### ④ 投稿規程の改正について

重複投稿の禁止、原稿の長さの変更等を含めた投稿規程の改正を行った。15 巻 1 号の巻末に改正後の規程を掲載するとともに、学会ホームページでも周知を進める。16 巻 1 号より適用する。

#### ⑤ 拡大編集委員会の開催について

11 月 6 日（土）に 36 名の査読者に集合願い、編集委員 9 名とともに拡大編集委員会を開催した。新投稿規程、投稿から掲載までのプロセス、次年度の編集・査読スケジュール等について説明し、査読に関する意見交換を行った。

#### ⑥ 編集事務の委託について

増加する投稿論文への対応の向上、ならびに随時査読の円滑な実施等にかんがみ、現在、編集事務を業者委託する方向で検討を進めている。

#### ⑦ 投稿について

投稿原稿を随時受け付けているが、年 2 回の発行スケジュールの関係から、第 1 号は 4 月末、第 2 号は 9 月末を締め切りとしており、積極的な投稿を願う旨が要請された。

### (2) 研究・教育活動推進委員会

山本委員長より、平成 22～24 年度の研究・教育活動推進委員会を下記のとおり構成した旨が報告された。

委員長：山本 則子

委員：井上 郁，諏訪さゆり，小林小百合，住垣千恵子，千葉 由美，得居みのり，深掘 浩樹，  
山田 律子

また、主な活動として下記の2項目について報告がなされた。

- ① 平成22年8月29日(日)東京医科歯科大学において、ワークショップ「生活機能再獲得のためのケアプロトコール実践編」を開催し、114名(会員63名、非会員51名)の参加があった。
- ② 平成22年11月5日(金)ベイシア文化ホールにおいて、ワークショップ「実践と研究の融合：看護の質向上に向けて」を開催し、58名の参加があった。

### (3) 老年看護政策検討委員会

石垣委員長より、平成22～24年度の老年看護政策検討委員会を下記のとおり構成した旨が報告された。

委員長：石垣 和子

委員：泉 キヨ子、太田喜久子、桑田美代子、水野 敏子

また、下記の4項目について報告がなされた。

#### ① 老年看護政策に関連した調査研究の計画

本学会が平成19、20、21年度に行ってきた厚生労働省老人保健事業推進費等補助金による調査研究事業をもとにした老年看護の評価につながる調査研究の計画を行っている。成果を看保連の活動につなげることを目指す。

#### ② 日本看護系学会協議会(JANA)からの調査依頼等への対応(特定看護師関連)

平成22年6月JANA総会時から、老年看護分野の特定看護師(仮称)について、金川克子監事、堀内ふき理事の2人を加えた拡大委員会にて検討。具体的な特定医行為の検討はワーキング・グループを設けて検討。(ワーキンググループメンバー：水野敏子、桑田美代子、湯浅美千代、酒井郁子、得居みのり、松本佐知子)

#### ③ 学術集会における厚生労働省調査研究事業の成果発表

平成21年9月26～27日札幌においてケアプロトコール班、特養医療ニーズ班、特養ケア管理班のポスター展示を、平成22年11月6～7日前橋において特養医療ニーズ班、特養ケア管理班、海外調査班のポスター展示を行った。

#### ④ その他

診療報酬に関する看保連での活動を行う。本年度は看保連主催の研修会に参加し、診療報酬や介護報酬へのつなげ方を学習している。

### (4) 国際交流委員会

正木委員長より、平成22～24年度の国際交流委員会を下記のとおり構成した旨が報告された。

委員長：正木 治恵

委員：井出 訓、片岡 万里、飯田貴映子、辻村真由子

また、本年度の活動方針として、下記の3項目について説明がなされた。

#### ① 本学会ホームページ英語版のコンテンツ作成

本学会を広く海外で周知してもらうため、日本老年看護学会ホームページ英語版のコンテンツ作成する。

#### ② 海外の老年看護学会との交流

先方より打診のあった韓国老年看護学会と具体的な交流に関する検討を行う。

#### ③ 会員への国際交流に関する情報提供、協力員との情報交換

ホームページ上における日本の老年看護の紹介や、会員が訪問した海外の施設の紹介、協力員との

ネットワークづくりを図り、老年看護に関する国際交流活動を推進する。

(5) 研究論文表彰選考委員会

酒井委員長より、下記の2項目について報告がなされた。

① 研究論文表彰選考委員について

平成22～24年度の研究論文表彰選考委員会を下記のとおり構成した。

委員長：酒井 郁子

委員：北川 公子，田高 悦子，諏訪さゆり，千葉 由美，得居みのり

② 第4回研究論文表彰選考日程について

第15回学術集会においては期間等の問題から論文表彰は行わず、第16回学術集会（平成23年6月）において論文表彰を行うこととした。選考対象論文の掲載誌は、14巻1号、14巻2号、15巻1号とすることが提案され、第2回理事会にて承認された。選考に関する委員会活動は、15巻1号発刊後に開始することとした。

以上、1)～3)の報告事項に対し、種々検討の結果、これを了承した。

4. 協議事項

1) 平成21年度決算報告（総一資料3）

水野会計担当理事より、総一資料3を基に以下のとおり説明があり、これを了承した。

① 収入の部については、会費収入：10,650,000円（正会員1,069名中1,010名）、学会誌等販売費：11,755円、利子・雑収入：947,572円（第14回学術集会からの寄付金・ワークショップ参加費等を含む）、前年度繰越金：6,175,425円を含め、合計18,684,752円の収入があった。

② 支出の部については、機関誌購入費：2,268,525円（14巻1号分、2号は次年度支払い）、編集委員会費：801,815円、研究・教育活動推進委員会：313,185円、老年看護政策検討委員会：145,337円、学会事務委託費：2,367,470円、本部事務費：645,907円、役員選挙費：625,068円等、合計9,562,793円を支出し、次年度への繰越金を9,121,959円とした。

③ 学会積立金特別会計については、受取利子：8,038円、前年度繰越金：5,015,669円を含め、次年度への繰越金を5,023,707円とした。

2) 平成21年度決算監査報告

正木前会計監事より、平成22年5月7日、北川前会計監事とともに、事務センターにおいて、通帳・領収書・残高証明書等を確認した結果、平成21年度の決算書が適正かつ正式であった旨が報告された。

1) 2)の協議事項について、出席者の挙手で採決をとり、多数により承認された。

5. 第16回学術集会／第27回日本老年学会総会、第17回学術集会について

1) 第16回学術集会／第27回日本老年学会総会について

中島第16回学術集会会長より、日本老年学会に加入して迎える初めての学術集会（合同学会）である旨の説明があり、多数の参加が要請された。また、詳細については下記のとおり報告された。

・開催日：2011年6月15日（水）～17日（金）

- ・会 場：NS スカイカンファレンス，京王プラザホテル他（東京都新宿区）
- ・テーマ：長寿社会の活力を生み出す老年看護
- ・演題登録期間：2010年12月24日～2011年2月8日
- ・プログラム：
  - 6月15日（水）合同プログラムのみ  
合同シンポジウム，パネルディスカッション，特別講演，合同ポスター発表他
  - 6月16日（木）日本老年看護学会プログラム  
学術集会長講演，シンポジウム1，ランチョンセミナー1，教育講演1，教育講演2，交流集会1～4，  
ポスター発表
  - 6月17日（金）日本老年看護学会プログラム  
特別講演，シンポジウム2，ランチョンセミナー2，分科会1，分科会2，交流集会5～8，ポスター  
発表

2) 第17回学術集会について

石垣第17回学術集会長よりご挨拶がなされ，2012年6月に開催予定である旨が報告された。

6. 閉会の辞

湯浅理事より，閉会の辞が述べられ，閉会となった。